

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第4部門第1区分

【発行日】平成24年1月5日(2012.1.5)

【公開番号】特開2010-127039(P2010-127039A)

【公開日】平成22年6月10日(2010.6.10)

【年通号数】公開・登録公報2010-023

【出願番号】特願2008-304497(P2008-304497)

【国際特許分類】

E 04 H 1/12 (2006.01)

E 04 F 19/04 (2006.01)

【F I】

E 04 H 1/12 301

E 04 F 19/04 102A

【手続補正書】

【提出日】平成23年11月14日(2011.11.14)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

ユニットバスの壁面を構成する壁パネルと、

前記壁パネルの上端に周縁部が載置されるとともに、前記壁パネルの表面側に垂下形成される垂下部が一体形成された樹脂製の天井パネルと、

前記天井パネルの垂下部に対して水平方向に間隔を空けて固定された樹脂製の目地受け部材と、

前記天井パネルと前記壁パネルの間の隙間を気密的に塞ぐために、前記目地受け部材に対して嵌合固定される天井目地と、を備え、

前記目地受け部材が撓むことを防止するために、前記目地受け部材の上部および下部は、水平方向の位置ずれを規制するように前記壁パネルに嵌合されていることを特徴とするユニットバスの天井目地構造。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

本発明の一様態によれば、

ユニットバスの壁面を構成する壁パネルと、

前記壁パネルの上端に周縁部が載置されるとともに、前記壁パネルの表面側に垂下形成される垂下部とが一体形成された樹脂製の天井パネルと、

前記天井パネルの垂下部に対して水平方向に間隔を空けて固定された樹脂製の目地受け部材と、

前記天井パネルと前記壁パネルの間の隙間を気密的に塞ぐために、前記目地受け部材に対して嵌合固定される天井目地と、を備え、

前記目地受け部材が撓むことを防止するために、前記目地受け部材と前記壁パネルの上部および下部は、水平方向の位置ずれを規制するように嵌合されていることを特徴とするユ

ニットバスの天井目地構造を提供する。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0021

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0021】

以上のように構成されたユニットバスの天井目地構造によれば、間隔を空けて取り付けられる目地受け部材のネジの間が温度変形して撓みそうになった場合であっても、目地受け部材の上端と下端とが、それぞれ天井パネル1の第3の垂下部5、および壁パネル2と天井パネル1の第2の垂下部4とで形成されるクリアランス部10に嵌合されているため、水平方向の位置ずれが規制される。つまり、温度変形による目地受け部材11の水平方向の撓みを抑制することとなるため、天井目地16が波状に撓んだ状態とならない。このように、長期的に天井目地16を所定の位置に位置決めできるため、意匠性と気密性に優れたユニットバスの天井目地構造を提供することが可能となる。